

基礎プロTA向け? 理論勉強会 インTRODダクション@bin

研究室の肖像

過去の卒業生による博士・修士論文を終えての研究座談会です。

- ・ 2015年研究座談会 [その1](#)
- ・ 2014年研究座談会 [その1](#) [その2](#) [その3](#)
- ・ 2013年研究座談会 [その1](#) [その2](#)
- ・ 2012年研究座談会 [その1](#) [その2](#) [その3](#) [その4](#) [その5](#)
- ・ [2010年研究座談会](#)

紹介

BinN Studies Unitについて



BinN Studies Unit (BinN:Behavior in Networks)は、1996年東京大学に羽藤が赴任したことを契機に14号館で発足した都市生活学研究室を母体とする研究グループです。現在は都市工学専攻、社会

理論勉強会#1-1
2015/04/17(金)
D3 浦田淳司

なんのための理論勉強会か.

既存の基礎理論を学び,
自分のやること(実習・実践・研究)に活かす

共同研究・実践と試験の違い

審査付論文

2014年

- 永杉博正, 羽藤英二: ネットワークの開路特性に着目した駅周辺街路の回遊性分析とその適用, 都市計画論文集, Vol.49-3, pp.711-716, 2014.
- 大山雄己, 福山祥代, 羽藤英二: 活動欲求を考慮した離散-連続モデルによる小滞在発生メカニズムの分析, 都市計画論文集, Vol.49-3, pp.375-380, 2014.
- Shafique, M. A., Eiji Hato and Hideki Yaginuma.: Optimum Feature Extraction Window Size for the Purpose of Travel Mode Detection using Smartphone's Accelerometer, 12th ITS Symposium 2014, Tohoku University, Sendai.2014

なにが評価されるか

土木学会論文集投稿要項より

(<http://committees.jsce.or.jp/jjsce/system/files/JSCEJournalGuide20130712.pdf>)

□新規性

: 内容が公知，既発表または既知のことから容易には導き得るものでないこと。

□有用性

: 内容が学術上，工学上，その他実用上何らかの意味で価値があること。

□完成度

: 内容が読者に理解できるように簡潔，明瞭，かつ，平易に記述されていること。

□信頼度

: 内容に重大な誤りがなく，また読者から見て信用のおけるものであること。

なにが必要か

- 新規性 ー既存の理論・研究を知り, 考える
- 有用性 ー何が足らず, 何が必要かを考える
- 完成度 ー(研究)整合的か, (実践)実現性があるか
- 信頼度 ー基盤となる既存の理論・研究の上に,
いかに綿密に積み上げられたか.

わからないことも多いと思いますし, 聞くこと, 教わることも多いと思いますが,
自分で学び, 考えることを習得してください

内容とスケジュール

参考図書

(ネットワーク配分) ※2013年ゼミ

Yossi Sheffi, URBAN TRANSPORTATION NETWORKS,
Prentice Hall, 1985.

<http://sheffi.mit.edu/urban-transportation>

(行動モデル) ※2009年後期B4ゼミ

Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2003.

<http://eml.berkeley.edu/books/choice2.html>

(ネットワーク配分, 行動モデル, データ分析)

ネットワーク行動学 -都市と移動-

<http://bin.t.u-tokyo.ac.jp/kaken/>

スケジュール(要調整?)

4/17 8:30-

理論勉強会#1

- ・イントロダクション(勉強会の内容, 発表の仕方など) 浦田
- ・JAVAの基礎 大山

4/24 13:00-

理論勉強会#2

- ・ArcGIS, イラレ実演 芝原
- ・Sheffi本2章 (非線形最適化) 庄司
- ・Sheffi本3章 (ネットワーク均衡配分の定式化) 近松 ※夜の部(理論談話会)で発表

5/01 8:30-

理論勉強会 #3

- ・MNLモデル, NLモデル 前田
- ・Rの導入と行動モデルの推定プログラム 笠原
- ・GEV関数 三木 ※夜の部

スケジュール(要調整)

5/08 13:00-

理論勉強会 #4

- ・ダイクストラ法 B4
- ・Sheffi本6章 (需要変動型均衡配分) 梅沢
- ・Sheffi本4・5章 (最適化アルゴリズム) ? ※夜の部

5/15 8:30-

理論勉強会 #5

- ・離散連続モデル 笠原
- ・CNL, network-GEV 三木
- ・Probit, Mixed Logit 前田 ※夜の部

5/22 8:30-

理論勉強会 #6

- ・行動モデルの推定(手を動かしてみて発表) B4×2 (やったことない人)
- ・マップマッチングのアルゴリズム B4
- ・確率的均衡配分(青本より) 近松
- ・Sheffi本11章 (Network Loading) 庄司 ※夜の部

ゼミの聴講の仕方

- 質問する
- わからないことは積極的に聞く
- どう自分の問題に生かせるかを考える(理論と工学)
- 考えたこと, 感想はあとでまとめる

発表の仕方について

話の容量 & 資料作成前に

less is more

- たくさん話せばたくさん伝わるわけではない。
- 話の容量を減らし、伝達効率を上げる工夫をする。
- 具体的には発表スライド量を減らす、話を精選する、時間を適度に短くするなどである。

資料作成前に

- レジюмеや読み原稿をつくり話の全体をまとめておく。
- 発表項目をつくってみる。
- できるだけ具体的に書く。

気をつける点

- スライド1枚につき1分を目安に作成する。
- 大きな字でかく。一番後ろの聴き手の人でも読めるように。
- 式の記号の説明はきちんと入れる。
- 印象的なスライドにするためにはグラフや写真などを使う。

論文ゼミ表紙

タイトル

A comparison of stochastic and deterministic traffic assignment over congested networks

著者

Sheffi, Y. and Powell, W.B

Transportation Research Part B, Vol.15, No.1, pp.53-64, 1981.

掲載誌

掲載号

ページ

年

全体で何回目か

2008/05/19(月)

論文ゼミ#1

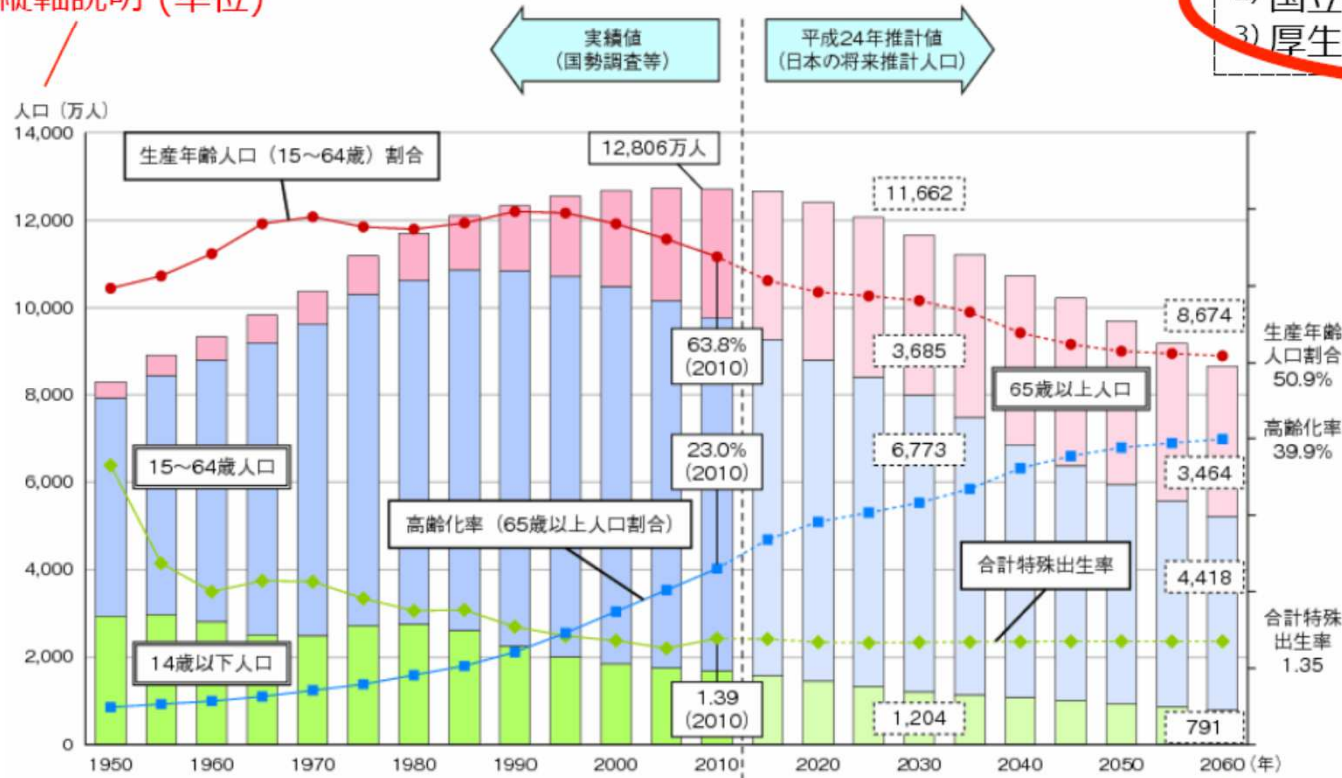
D1 or M2 or M1 or B4

D1 山本朋広

日本の人口のこれから

スライドタイトルを書く

縦軸説明 (単位)



- 1) 総務省
- 2) 国立社会保障・人口問題研究所
- 3) 厚生労働省

出典を書く

図-1 日本の人口推移

図のタイトル

横軸説明 (単位)

ゴシック体

Arial

ページ番号

9